

”花の中の碑”

「念ずれば花ひらく第303番碑」再訪報告

N.T兄様

拝啓、いつも暖かいご指導いただき有り難うございます。20年振りにイスラエルの旅をしてきました。大袈裟に申しますと21世紀になって初めてのイスラエルへの旅でした。思えば10数度訪れています。毎回大きな事件の前後に訪問しており、今回も米国トランプ大統領のエルサレム首都宣言で争いを起こされた最中の訪問となりました。かつてはラビン首相の暗殺直後にもエルサレムにおりました。

貴兄にも参列いただきました1994年3月31日の平和を願う「念ずれば花ひらく」第303番碑の除幕式の直前も過激なテロ行為があり旅行の催行が危ぶまれました。この地に住む人々には真に気の毒な事と同情を禁じ得ません。今回はネタニアフ首相の汚職疑惑から国民の目を外に向ける為に米国の福音派を通じてトランプ大統領に仕掛けたとも言われています。権力構造はいつでもどこでも変わらない自然科学的な力を持っているように感じます。著しい変貌に驚き帰国しましたので概略の報告をさせていただきます。



(1)時代の隔絶を感じる変化

今回は1994年との比較をしながら変化についてお話します。数字を調べるまでもなくこの24年の間にももの凄い変化をしていることが私のような旅人にも分かります。

自然の変化になるのでしょうか。死海の地表層は益々広がって明らかに二つに分割された様はこの地の宿命を表しているようです。水量の激減にもかかわらず二つの湖は共存するために側構を造り水を分けあっています。このような科学的な工夫



1993年10月頃松山で真民先生と筆者

には優れた頭脳が働きます。

クムランとマサダの激変には驚嘆です。まずクムランですが24年前には。遠くから眺めるだけでした。ところが今では洞窟を模した立派な博物館があり、日本語を含む各国語でDVDで予習をして遺跡を見学するようになっています。洞窟近くまで展望台が迫り、洞窟の後方では少年達がロッククライミングを楽しんでいました。博物館には多くの発掘物が展示されています。野外ではこの日、入隊期間を終えた男女の若者達の祝賀式が挙行されることになり家族も参加して盛大な式典があるとのことでした。このような儀式はかつてはマサダの要塞で見ることができました。マサダの変りようは物理的な変化にとどまらず、歴史解釈にまで及んでいました。ご存知のようにマサダには二つの歴史物語がありました。

①ローマ軍と最後まで戦かって壮絶な苦悩を抱いて自決した熱心党の人々の悲愴な事実

②紀元1世紀にヘロデが建造した宮殿跡をめぐる高度な建築技術と頑強な要塞建造遺跡

以前は①の方に重点が置かれ「ノー・モア・マサダ」の精神を成人式の時に学ぶことになっていました。ところが21世紀に入ってから式は中止となり、マサダでの入隊訓練も無くなったそうです。理由はユダヤ教では自決は絶対に認めてはならない、例外を認めないとする学説を徹底するようになったとのこと。従ってマサダの

歴史はヘロデの建築物ということになり「ノー・モア・マサダ」は死語になったのです。こうして一つの歴史上の事実が短い時間に歴史から消されいくのです。

今、自分が直面している問題と重なり合って胃に激痛が走りました。

歴史認識を変えうる力を持つ権力がアメリカの福音派の影響を露わに受けて、変容させているのが現政権なのかどうか。建国を揺るぎないものにしなければならない姿勢なのでしょうか。浅薄な知識で深入りは出来ませんが24年前との比較で感じたことです。

話は北に飛びますがティベリア、ガリラヤ湖の周辺が観光的に整備され素朴さ、野趣がなくなりました。野に咲く花に囲まれて、鳥の声のさえずりを聞きながら、滝沢陽一先生に司式して頂いた野外礼拝、そしてみんなで歌いながら丘から湖に小躍りした散歩道は囲の遠くにありました。2月という雨期にもかかわらず世界からの観光客で溢れんばかりの山上の垂訓教会にはお土産屋さんが出来ています。

エルサレムの変わりようを述べると何世紀も前の事を言っているのかと言われそうですが今ではダマスコ門と新門をかすめるように市街電車が走っています。そしてあの隔ての壁です。今回お世話になったガイドのイリットさん、自ら「わたしはアラブ系ユダヤ人です」と言われ、正直にこう言いました「ベルリンの壁が壊れ、冷戦が終わったのに我が国は壁を造った。大変悲しいことです」

その壁を見てきました。ベルリンの壁のようにハンマーでは壊せない鉄鋼造りです。高くそして厚い壁です。これを安全に取り除くには高度の人間の手作業が必要と思われませんが、これからはロボットならできるのでしょうか。なんであれこの壁は取り除くためにあると考えたいです。帰国した翌日NHKは入植者のために立ち退きを余儀なくされるパレスチナの人々を写していました。見るのが辛い番組でした。話がなかなか本論に入らないのですがもう一つ付け加えます。

出入国の手続がヨーロッパ並みと言いますか一般的になりました。尤も今回はワールド空港サービス社の団体旅行でしたので個人旅行者とは異ると思いますが、以前のように2-3時間の質問迫めや搭乗者を囲の中に入れて探知犬による麻薬、武器所持検査はなくなっているようです。恐らくパスポートに相当の個人情報が入っているのでしょう。荷物検査はアメリカ方式でしたので、わたしは古いカバンの為、鍵をかけず紐でぐるぐる巻きしましたが開けられた形跡はありませんでした。非常に高度な解像力のある検探機を通して光線があてられるのでしょう。それをかいくぐって密輸品を持ち込む知恵も相当なもの又は裏ルートというのもあるのでしょうか。前段が長い駄文になりました。本題に入ります前に変化を数字で表しておきます。

(末尾に掲げます)

(2)念ずれば花ひらく 第303番碑再訪

今回の旅の目的は「念ずれば花ひらく 第303番碑」再訪でした。建立者には守り伝える責任があります。聞き及びますところ先代から引継いだ意味が分からずで迷惑をしている2代目が増え忘れられそうになっている碑が日本国内でも多くなってきたようです。私もそんなひとりになるのではないかと不安になり、貴兄にもお願い

してインターネットを通して調べていただきました。現地エルサレムで建立に協力頂いた方々との音信も私の力不足で途絶えていましたので不安が日毎に募っていました。24年の歳月の経過は個人の生活にも大きな変化が予想されましたので、生の実情を見る力がある内に自分の眼で見て、最新の情報で



記録に留めたいと思いました。

旅の最終日がエルサレムでフリータイムになっていました。ワールド空港サービス社に依頼して通訳をお願いして単独行動の許可もらいました。来られた方は田中大志君（22歳ヘブライ大学の学生さん）で武田信也さんの後輩でした。ご存知のように武田兄は、1994年3月の旅の名ガイドで日本からの引率、イスラエルでの公認ガイドの資格を持たれていましたので現地でのガイド全て引きうけてくれた方です。偶然の一致にわたしは高揚しました。彼は事前に碑の位置の下見をしており、的確に案内をしてくれました。

碑の前に立って驚愕したことはその美しさ神々しさでした。ちょうど雨上がりで天候が回復して光が射しはじめた頃でした。その光を受けて輝いている姿は24年前と全く変わっていませんでした。周りの花々に囲まれて悠然と高貴な風格は威風堂々の言葉がふさわしく24年の風雲を受けたとは思われない伊予の青石、そこに深く刻印された「念ずれば花ひらく」の文字には殆んどほこりはたまっていませんでした。いままさに建立されればかりの新鮮さ触れてこの碑を守ってくださっている人々の優しさと思いの深さを感じました。私は日本から掃除道具を準備していきました。しかしそれらはほとんど使わずに済み、十分な水をかけて形ばかりの小さな砂を取

り除いただけで十分でした。裏側の銘板もゆるぎなく密着して埃は全くたまっていませんでした。まるで毎日水を与えてくれているかのように清澄でした。積もった垢を一夜漬けで取り除いたというようなものでなく毎日磨かれているかのようにでした。



杞憂を恥じていたところに後から私の名前を呼ぶものの声がする。なにかの間違いかなと振り

返るとにこやかな笑顔で一人の青年が近づいて来ます。どうして私の名前を?実は、これにも信じられない人と人とのつながりが人間の意志を越えて存在することを知らしめられるストーリーがありました。

(3)導かれてある証

今回のツアーの現地ガイドはイリット・マギッドさん。日本語の上手な方でした。私はツアー旅行の秩序を乱したくないので私の目的をイリットさんに話したのは前日になってからでした。「明日は自由に行動させていただきたい。その目的は・・・」と話し写真と地図を見せました。



碑から遠景

イリットさんは「信じられない。誰がこんなことをしたのですか」と何度も私に詰問するのです。アビシャイ先生と私の写っている当時のイスラエルの新聞記事を見てやっと信用してくれました。彼女がアビシャイ先生を知っておられたからでした。相当ご高齢ですがまだ植物園にかかわっておられるかも知れないとの情報を頂きました。

「もう一人この写真に写っている人は有名な学者さんです。この人に連絡をとってみます」と言うが早いかダイアルを始めました。その方は24年前の記憶は消えていましたが桜の木のこと覚えておられ「自分は明日行けないが、日本庭園の責任者を派遣する」と約束してくれました。その方が写真に写っているオフエルさんです。

「ここは私の担当区域で毎日見廻しています。つい先日もここで催事があり多くの家

族ずれ子供たちが集まりましたよ」「この碑を献碑してくれた方が遠く日本から掃除に来てくださることにわたしは驚いています。あなたの大切に思う気持ちをしっかりと受けとめてメンテしていきます。私はここに来て5年なので24年前はまだ学生でしたから知りませんでした。小原さんに会えてとても光栄です。植物園は未だ工事中ですが後5年経てばもっともっと花も木も成長し素晴らしい庭園になりますから是非とも再訪してください」「アビシヤイ先生には連絡しておきます。後日メールを届けます」と約束して堅い握手をして別れました。アポ無しの再訪でしたので予期しない成果を喜んでいます。もう一つ嬉しいことがありました。それは20年前

に真民先生にイスラエル文化に貢献した海外の人三人に与えられるゴールデンバッヂを届けてくださったイツハックアイアロン氏の依頼で日本から送った二種類の日本松種の一つ黒松が育っていることでした。オフエルさんの専門は盆栽造りということでその盆栽で勢い良く成長している黒松を見せてくださったのです。この松の種



は教友である江上慎一君から無償で提供していただいたものです。アビシヤイ先生は「花や植物は種から丁寧に愛情をもつての育てると芽を出すものです。花のミラクルパワーは不思議なものです」と24年前に言われた名言を思い出しました。思えば野の花というのは種から芽を出すわけですね。種は風で運ばれるか、鳥たちが運び良い土地に落ちたタネが良い実を結ぶと言う摂理に通じます。第303番碑は真に良い地におかれています。現実の情勢をみて平和の実現を諦めることは簡単なことです。「にもかかわらず」という希望をなくしてしまうと世界は闇になります。世界に737ある真民先生の碑が「地の塩、世の光」となりうることを確信して帰国しました。

(4)「これからのこと」 ご相談です

よくよく考えれば、この碑の建立の種は貴兄の「真民詩の日めくりカレンダーを英語で作ろう」という発想と坂井孝彦兄の「日本の心を世界に」という理念と「エルサレムに平和が実現しなければ世界の平和はない」私の考えが相互作用して芽を出

したものです。そこに真民先生の「二度とない人生だから」や「ユニテ」が創発的に作用し日本の心「念ずれば花ひらく」に焦点が合いました。真民先生は仏教詩人であることは間違いありませんが世界観は「大道無門」で壁を作らない人で私のような者とも親しくしていただいたのです。逝去されて12年ですが伝承に捨象現象＝壁の初期が見られ、これが普及の障害になりつつあることを感じます。壁の形成に拍車がかかりますと壁の自己作用で周りが見えなくなります。又、私は多くの方に各地に碑を建てることを推進した一人ですのでその人達にも正しく継承していただく道義的責任があります。昨年は福岡県立八女高等学校に第505番碑を移設させて頂いて今年の新入生の学年指導の柱が「念ずれば花ひらく」でこれは3年間変わらずに学年新聞の題名になることが決まりました。

ユーモアに満ち、若い人には希望を語るように切々と語る真民先生を今も尊敬しています。

真民先生を支えてこられた人々の無私の働きの偉大さも残された詩や随筆から読み取れることができます。又この眼で見てきた晩年を支えた人々も忘れることはできません。真民詩はそうした多くの方々の支えのなかから生まれていることは随所で真民先生が語っておられます。

坂井孝彦兄の英訳のご奉仕も忘れられません。

今回も「真民先生さんとはどんな詩人なのか」と度々尋ねられました。英訳のサマリーがあると助かります。「鳥は飛ばねばならぬ」が絶版になっていますので、それをどのように復活するかを考えています。

そこで、常に私に火をつけてくださり、慎重な方針をご指導をくださる貴兄に原点を見直すお力を賜りたくこの長い駄文をお届けすることをお許しく下さいませ。語り尽きせぬ思いもまだまだ沢山ありますが今日はこの辺で失礼を致します。敬具

2018/02/28 19:55

あとがき

帰国して私を待っていたのはショックな事でしたが、受け入れなければならないこと。人生晴天ばかりではありません。ともかく約束の仕事を果たすために福岡に出張して帰路宝塚により家族から事情を聞き祈りをともにしてATM（明るく、楽しく、前向きに）で立ち向かっていこうと語り合い久しぶりに全員そろって「お好み焼き」で歓待を受けました。そんなことで自宅に落ち着いたのが27日でこの原稿は揺れ揺れの新幹線の中で書きました。24年前を知ってくださって常に見守ってくださる先輩宛の手紙を公開することにしました。

今月もギリギリセーフ最後はハッピーで終わる私の人生脚本でした。

資料から学ぶ1994年と2017年のイスラエルの成長比較 (US\$)

一人当たり名目GDP	1994年	2016年	2017年	1994/2017成長倍率
日本	39,224	38,882	38,550	0.98
イスラエル	15,657	37,192	39,974	2.55
二国間比較倍率	0.40	0.96	1.04	

2016年の日本は世界ランキング22位、イスラエル世界ランキング25位
2017年はイスラエルが日本を抜いたこととなります。世界ランキングは未発表です。

一人当たり購買力平価GDP	1994年	2016年	2017年	1994/2017成長倍率
日本	22,598	41,220	42,658	1.89
イスラエル	15,402	35,220	36,249	2.35
二国間比較倍率	0.68	0.85	0.85	

購買力平価は「為替レートは2国間の物価上昇率の比で決定する」という観点により、インフレ格差から物価を均衡させる為替相場を算出している。各国の物価水準の差を修正し、より実質的な比較ができるとされている

ハイテク産業への日本からの視察は毎月上昇しています。水の問題を抱える農業技術も格段の進歩を見せています。小国侮れず、若者の多い中東と人口が減少する日本との将来は？身につまされる現実です。

出典；IMF-World Economic Outlook Databases(2017年10月版)